

昭和九年度所屬組合の仕向先割當數量基定基準數量表を示すと次の如し。

仕向地方	名古屋陶磁器輸出組合		神戸陶磁器輸出組合		東日本陶磁器輸出組合		大阪陶磁器輸出組合		大日本陶磁器輸出聯合會	
	磁器輸出	噸	磁器輸出	噸	磁器輸出	噸	磁器輸出	噸	磁器輸出	噸
北米	一四八、五七四	噸	二六、三三三	噸	四、三三三	噸	三六	噸	二六、五五四	噸
英印	二、九五〇	噸	一七、三三三	噸	一九七	噸	二一、四二二	噸	四、一九七	噸
南洋	五三、八九〇	噸	一四、六五五	噸	二九	噸	二二、〇六六	噸	八〇、七〇〇	噸
歐洲	一四、七七七	噸	三、九四八	噸	二、八三三	噸	一〇五	噸	四〇、七七一	噸
濠洲	一八、一三三	噸	三、三三三	噸	一、九四四	噸	三三	噸	三、七三三	噸
滿洲支那	三三、〇〇五	噸	二、六六八	噸	二九	噸	六九二	噸	三、六三三	噸
阿弗利加	一三、一七九	噸	九、〇四四	噸	四二	噸	八〇六	噸	三、五〇〇	噸
中南米	四、四九七	噸	一、三九二	噸	四三	噸	二二	噸	六、三三三	噸
近東埃及	一、八七一	噸	六四九	噸	六二	噸	三六	噸	二、六六七	噸
合計	三〇〇、九五五	噸	八七、二九	噸	一〇、四四五	噸	三三、一〇七	噸	四〇〇、八六六	噸

割當は名古屋陶磁器輸出組合が七割、神戸同組合が二割、残り一割が大阪及東日本同組合となつてゐて、仕向先は北米が四割を占め第一位に、南洋の一割一分、英印、歐洲の約一割の順

位である。新規割當に於ては米國の五十噸に對し、蘭印の三十噸他は何れも二十噸以下であり、超過可能數量は新規割當の二倍で合計輸出可能數量は新規割當の三倍で米國の百五十噸蘭印の九十噸他の國は六十噸以下である。(未完)

新著紹介

○大日本讀史地圖

富山房發行 芦田伊人修補 特價五圓五十錢

富山房には吉田東伍博士の本圖帖があつた、昭和六年吉田博士に學ばれた芦田氏がその増補を快諾されて數年遂に八十有二版の本圖帖が完成した、この内舊圖を存する僅に十八面他は悉く新作でなくんば大に修訂を加へられたものである。

日本古地圖四種いづれも面白いのをコロタイプにした外に各時代の讀史圖ができた、第一圖の魏使來航道程推定圖は、耶馬臺を、筑前山門郡に置いてあるが、これでは魏書の道里に一致しないと思ふが、其他の圖版いづれも校訂緻密、我等はこれによつて讀史上發明する所の多いの喜び、著者多年の蘊蓄を傾けられた努力に絶大の賛辭を呈したい、印刷も體裁も美はしい、近來の地圖界への寄與であることを信じ江湖に

之をすゝめる。(藤川)

○朝鮮の聚落後篇

朝鮮總督府

昭和十年三月三十日

朝鮮總督府の生活狀態調査の其八として囑託善生永助氏の調査研究にかゝる聚落編の後篇が出た。これは久しく待望のものであるだけに善生氏の精進勇猛に自から畏敬の念を生ずる、本篇は同族部落の調査であつて、同本同姓のものが一部落又は一地方に集團住居せるものゝ狀態であるが、善生氏の云はれるやうに世界に稀に存在するものであらう、蓋し東洋文化の發展した農耕民族が黃河、揚子江の大平原に移住開墾をはじめた有史以前から、多くのこれらの民族から派生した新民は或は北に或は西に或は東に移動したが、その移動の最初から既に家族的であつた、それがある地を占據定住するや、いよ／＼深く土に親み、同族相より相助けて、子孫の長養を計つた、こゝに所謂東洋儒教や道教の根柢が發生した、本書はさうした太古からの民族移動と定住との關係を明に指示する、第一、姓氏の變遷と同族部落 第二、名族興廢と同族部落 第三、歸化氏族の同姓部落 第四、同族部落の分布、第五、同族部落と儒教勢力及び地方に於ける儒林、兩班儒生の分布 第六、特色ある同族部落、結論から成立し、菊版九九四頁の本文と數頁の寫眞版を附加した尠大な報告となつた、善生氏の努力もさることながら印刷製版の方々も勉めたものだといはざるを得ない。

雜 報

いづれにしても姓氏を重んずることは東洋人倫道德の基調である、我等はかうした研究が日本の内地に於ても試みられる日の來たらんことを祈らざるを得ない。(藤川)

雜 報

○里昂に於ける本邦生絲

一九三四年に於ては前年に引きつゞき日本生絲は顯著なる進出をなし、リオンに於て其第一位を占めた。從來支那絲や伊太利絲を使用してゐた機業家は、本邦生絲を以て代用することの可能なるを究め漸次其使用を馴致した結果ではあるが、幸に本年好況であつた織物に適合する生絲であつたから、價格の低廉と相待つて歐洲生絲と支那生絲を壓倒することが出來た。

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
日本	四八五、六三九	六〇一、四四五	一、六三三、五九九
伊國	五八八、八七七	六〇七、〇三四	二二八、三五四
支那	四三三、九九九	七〇五、四〇七	二六〇、四九二
廣東	二二二、六七二	二六一、九八八	二八九、四三三

この表に見るやうに一九三四年には非常な躍進であるが、この結果伊太利生絲に影響を及し一時輸入制限の聲もきこえた位であつたが九月以後環境好轉して今日に及んだ、米國向の日本生絲は主として絹靴下製作といふ單純な方面の需用で